

幼稚園

Kindergarten

キリスト教保育の実践

幼稚園生活の土台にあるのは、神様への礼拝です。お弁当前や降園時に日々祈り、讃美歌を歌います。誕生日会では、神様に愛され守れられて大きくなったことを覚えて礼拝を守り、収穫感謝礼拝では、遠足で掘ってきたさつまい芋を囲んで礼拝を守った後に、焼き芋にして収穫の恵みを味わいます。裏庭の柿の木の実を採って磨き、園児たちが「柿屋さん」となって保護者に販売した収益は、チャイルド・ファンド・ジャパンを通して支援している子どもたちや、愛泉乳児園の子どもたちに思いを寄せ、祈りつつ献金としてお献げします。

一人ひとりが神様から与えられている賜物を活かし存分に遊ぶ幼稚園で、嬉しいときも悲しいときも共にいてくださる神様を身近に感じて過ごす中で、子どもたちの心に信仰の種が撒かれ、青山学院の一貫教育の中で育まれていくことを願います。

(幼稚園教諭 赤坂 洋子)



クリスマス礼拝



学年礼拝

初等部

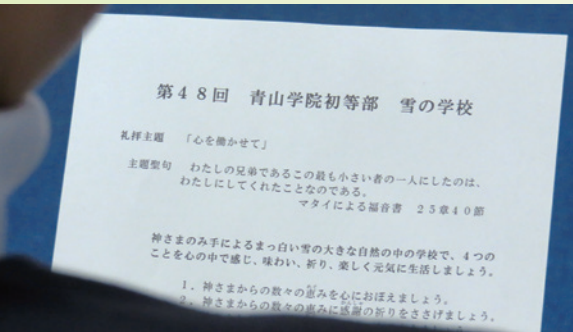
Elementary School

聖書の言葉と祈り

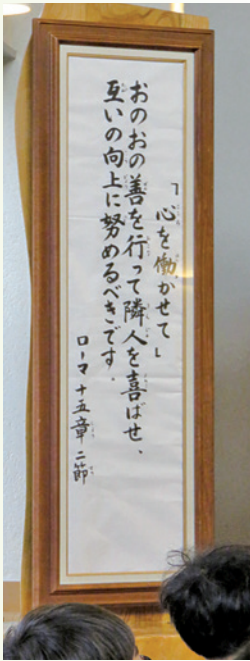
初等部では、日々の学校生活で聖書の言葉（聖句）とお祈りを大切にしています。日々触れる聖句は心の糧となり、生涯にわたって本人を励まし続けてくれます。また神様へのお祈りは、謙虚さと他者への思いやりの心を育ててくれます。

三つの具体的な取り組みをご紹介します。一つ目は、毎週 1 回低学年と高学年に分かれて持たれる祈禱会（お祈りのための集まり）です。そこでは、聖書の言葉に耳を傾けた後、願いと感謝のお祈りを神様にささげます。二つ目として、日々の礼拝のために、週替わりの聖句（今週のみことば）が決められています。各種行事にもテーマ聖句が設定されており、その聖句を意識したプログラムが組まれています。三つ目に、子どもたちに暗唱してもらっている聖書の言葉（暗唱聖句）があります。それは、「主の祈り」と「詩編23編」の言葉です。前者は、イエス様がお祈りのお手本として祈られた言葉であり、後者は、昔から多くのクリスチャンが心の拠り所にしてきた聖句です。

このように、聖書の言葉とお祈りを日々の学校生活の土台とすることが意識されています。



行事のテーマ聖句



今週のみことば

(初等部教諭 戸井田 直人)

中等部

Junior High School

パイプオルガンと共に

新礼拝堂に続き、中等部に待望のパイプオルガンが設置されました。9月からパイプオルガン奏楽による礼拝が始まり、新たな歴史を踏み出すことになりました。

オルガンはドイツ、ワイムズオルガン製作会社製の二段の手鍵盤とペダル鍵盤、26ストップ（音の種類）からなる楽器です。パイプはドイツの工房で一本一本手作りされ、発注から3年の歳月を経て、2019年6月に中等部に搬入されました。その翌日に組み立て開始。続いて1562本におよぶパイプの整音が行われ8月下旬に完成しました。礼拝堂正面から放たれるオルガンの響きは金粉のようにキラキラと輝きながら生徒たちに降り注ぎます。空気で発音するパイプの音と人間の声との相性は抜群のようで、生徒たちの賛美の声は以前よりも豊かになり、パイプオルガンが教会と共に発展を遂げてきたことを実感しています。この素晴らしい楽器が中等部教育を支え、末永く響き続けることを願っております。

(中等部教諭 伊藤 秀行)



中等部礼拝堂

高等部

Senior High School

高等部の礼拝や宗教行事

「はじめに言があった」とヨハネ福音書にあるように、高等部の礼拝で最も大切にされているのは「言」です。もちろん、効果的に最新鋭のビジュアルを使ったり、音楽や歌などを礼拝に用いることは常に行っていますが、それでも講壇に立つ者の奨励の中心にあるのは、キリストを伝えるため、実体験を交え、生徒の心に染み入るように語り掛ける「言」なのです。

現在、高等部の礼拝はクリスマスやイースター、ペンテコステといった伝統的な教会暦に基づく礼拝はもとより、春・夏の伝道週間、音楽を中心とした特別礼拝、三年生を送る卒業礼拝など、多彩な礼拝を捧げています。

ですが、例えばイースターには礼拝の後には、高等部内に隠したクイズ入りの模造卵を探す「エッグ・ハント」のような、楽しい行事も行われています。また、クリスマス礼拝は隔年で、生徒の手によるダンスや歌などを用いたページェントが行われています。しかしそのような行事の奥深くに必ずあるのはイエス・キリストの愛に満ちた「言」なのです。

このような日々の礼拝や行事の中で、高等部のキリスト教教育はこれからも永遠にその伝統を保っていくことでしょう。

(高等部宗教委員会)



伝道週間



クリスマス祝会

女子短期大学

Women's Junior College



宮古市の鉾ヶ崎公民館でのハンドベルコンサート



防潮堤の上で被災地研修「学ぶ防災」を受ける

宗教活動で学んだ繋がりと絆

女子短期大学の宗教活動委員会では、グロリアス・クワイアやろばのこなどのメンバーが集い、おすそ分け作戦やフードドライブといった支援活動や、オータムリトリートやクリスマス会といった行事も行っています。

私はこの3年間、グロリアス・クワイアに所属し、ハンドベルによるコンサートや礼拝奉仕に参加してきました。その中で最も自分に大きな影響を与えた活動が岩手県宮古市での震災ボランティア活動です。自分自身がハンドベルを通して被災した方に対してどのように支援ができるか考えるきっかけとなりました。ハンドベルの音色に耳を傾け、毎回楽しみにしてくださる宮古市の人々に私たちが元気付けられています。

人と人が繋がって大きな輪が作られていくことを実感し、神様に守られて今年度も新しい出会いがある事を楽しみに、ハンドベルを通して様々な所と繋がっていききたいと感じています。

(女子短期大学子ども学専攻 1年 下田 桃子)

大学

University

キリスト教教育と活動

青山学院大学に入学した皆さんは、毎日1限目と2限目の間に礼拝の時間があることを不思議に思うかもしれません。これは青山学院大学が最も大切にしている礼拝に出席してほしいという大学からのラブコールであり、礼拝時間を通して他の大学では経験できないキリスト教の人生観や価値観を学ぶよい機会です。毎週火曜日の18:30から学生が中心となって賛美するコンテンポラリー礼拝や、前期と後期には各界で活躍するクリスチャンをお招きしたチャペルウィークも行われています。

世界には20億人以上のクリス教信者がいるといわれます。全学生必修のキリスト教概論では、知的側面からキリスト教を学ぶと同時に、グローバルなセンスや価値観を理解し、また昼休みに行われる「聖書に親しむ会」「キリスト教文化に親しむ会」は、身近に宗教主任やクリスチャンの先生方に接し学ぶことのできる貴重な機会となっています。

さらに多くの学生がクリスチャン・ノンクリスチャンを問わず宗教センター所属の4団体—聖歌隊、ハンドベル・クワイア、ACF（青山キリスト者学生会）、ゴスペル・クワイア—toに所属し、課外活動を行っています。良き師・良き友と出会い、充実した大学生活を送ってはいかがでしょうか。

「オルガニスト養成講座」では、大学オルガニストの指導により礼拝堂にある本物のパイプオルガンを弾くことができる講座が用意されています。

これらは全学生に開かれ、行われるものです。青山学院大学での新しい出会いがあなたにとって一生のよい経験となるでしょう。

(青山学院宗教センター)



聖歌隊



ハンドベル・クワイア



ACF



ゴスペル・クワイア



相模原キャンパス点火祭



夕礼拝